

GINZA SIX 誕生

2017年4月20日、当社が設計と施工を担当してまいりました銀座エリア最大規模の複合施設「GINZA SIX（ギンザシックス）」が誕生しました。

同施設は松坂屋銀座店跡地を含む街区と、隣接する街区約1.4haを一体的に整備する市街地再開発事業によって建てられました。地上13階、地下6階、延床面積は約14万8,700㎡に及び、241店舗からなる商業施設を中心にオフィス、文化・交流施設のほか、銀座初となる観光バス乗降所やツーリストサービスセンター、銀座エリア最大規模の屋上庭園などで構成され、災害時は約3,000人の帰宅困難者受入れ施設としても機能します。

設計は日本を代表する建築家の谷口吉生氏と当社建築設計本部の協働で行われました。外観デザインの特徴は「ひさし」と「のれん」。銀座の街並みが持つ歴史と美しさを引き立て、伝統的な日本の様式を踏襲したデザインが人々を迎え入れます。

大きさの象徴となるのが「ひさし」です。銀座のあらゆる路地から見えてくる建物が一目でGINZA SIXだとわかるように、ステンレス製のひさしがオフィスの入る上層階をぐるりと巡ります。オフィス部分の日射遮蔽、外部からの給気、メンテナンス用デッキなどの機能も兼ね備えており、水平的な統一感を演出し、メタリックのひさしが夜の銀座の光を映し出します。

「のれん」は、ひさしとは対照的に垂直方向に建物を小さく分節化することで、銀座の細やかな路地の世界に繋がるスケールを表現します。縦に長い店舗が軒を連ねる銀座ならではの街並みや周辺の商業施設との連続性を図っています。のれんを活かし、入居するそれぞれのラグジュアリーブランドが、ブランドコンセプトを基に、建築や空間、そこに使用される素材に至るまでこだわった演出で、様々な顔を創り出します。

施工は2013年7月から松坂屋銀座店を含む一帯の解体工事に着手し、2014年4月に新築工事が始まりました。

銀座の一等地にある世間の注目度が高いプロジェクトであり、何があっても竣工を遅らせることのできない状況の中、所員、作業員全員の“人の力”と当社の“技術の力”を結集することで、2017年1月に建物が無事に完成しました。

GINZA SIXの名称は、銀座6丁目というロケーションに由来しますが、同時に「五感を超越した喜びや満足など新たな価値を提案する」「6つ星級の価値をもった施設である」ことを表現しています。

2020年のオリンピック・パラリンピック開催に向け盛り上がりを見せる東京において、商業・文化の交流拠点である銀座のアイコンとしての役割が期待されています。



特徴のある「ひさし」



草間彌生〈南瓜〉©YAYOI KUSAMA

